

JD 共済

No.45

発行日 平成27年 3月25日

〒939-8072 富山県富山市堀川町278
ジェイ・ディ共済協同組合

TEL.076-421-2221 (大代表)
FAX.076-425-9561
URL <http://www.jd-kyosai.com>
E-mail info@jd-kyosai.com

一般ドライバーの方々の 運転代行に対するイメージは？

各地のイベント会場での アンケート結果から

昨年11月発行のJDつうしんNo.43で紹介しました「**運転代行の利用促進のために、新しい取り組みに挑戦!**」の記事に対して、数社の組合員様から次のような声をいただきました。

- ・運転代行のことを知ってもらえるととても良い取り組みだと思う。ぜひ、これからもいろんなイベントで、継続して実施してほしい
- ・運転代行業者の選び方がわからない人が多いと思う。業界団体と連携を図り、運転代行のことをもっと広く世間の方々に知らせてほしい

組合員の皆様からお寄せいただいた、このようなご要望を真摯に受け止め、今後の活動を展開してまいります。

また、当共済では、さまざまな飲酒運転根絶イベントで、一般ドライバーの方々に対して、「**運転代行に関するアンケート**」を実施しています。その目的は、①運転代行のことを多くの方々に正しく知ってもらい利用促進につなげるため、②一般ドライバーの運転代行に対する認識を組合員の皆様へフィードバックして役立ててもらうため、そして、③業界の問題点を洗い出し、業界健全化への一助とするためです。これまで、6ヶ所(北海道札幌市・恵庭市、静岡市、滋賀県守山市、神戸市、沖縄市)で開催された交通安全・飲酒運転根絶イベント等で実施したアンケートの主な結果は以下のとおりです。

《アンケート結果(回答数428人)》

Q. 運転代行を利用したことはありますか？

はい 55% いいえ 45%

Q. 運転代行を利用しない理由は？

| | |
|---------------|----|
| 事故が心配 | 24 |
| 使い方・頼み方がわからない | 41 |
| 料金が高そう | 82 |

※回答数には、飲酒しない人、運転免許を持たない人は含まれていません。

この結果から、お客様の「**事故が心配**」という不安を払拭するために、**事故防止活動を継続**していくことが必要だと言えます。「**運転代行業は『人の命と財産を預かるサービス業』**であることを常に意識し、きちんとした身なり・言葉遣いで、おもてなしの気持ちで接客する」「客車受託中だけでなく、**回送中もスピードを出し過ぎずに安全運転を行う(随伴車は自社の看板を背負った走る広告塔)**です。随伴車の運転マナーはしっかり見られています)」など、日々の業務の中で運転代行に対するイメージアップを図っていくことが重要です。

また、アンケート回答者からは、運転代行業者に対して、次のようなコメントをいただきました。

- ・いつもありがとう! 安全運転をお願いします
- ・利用する人にとっては便利だし、お酒を飲んだ人は、ぜひ使ってほしい
- ・料金競争で質を落とさないでほしい。料金だけで選んでいません!

■運転代行のことを正しく知ってもらうために

また、このアンケート結果から、「情報不足で運転代行のことがよくわからない」ということが、運転代行を利用しないことにつながっていると言えます。この問題を解決するために、当共済では、「運転代行のことを知ってもらい、代行利用を促進するカード」を業界団体の公益社団法人全国運転代行協会と共同制作し、組合員様へ提供しています。今後も業界団体との連携を密に図り、「**飲酒運転根絶の受け皿である運転代行**」のことを一般ドライバーにもっと知ってもらい、業界健全化と代行利用促進に向けた取組みを積極的に展開していきます。

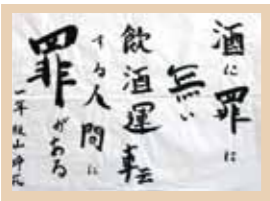


▲折りたたむと名刺サイズのカードになります。裏面には、運転代行を選ぶときの豆知識が掲載されています。

JD共済 presents SDD 全国子ども書道コンクール

北海道・東北ブロック

〈最優秀作品 1点〉



秋山 玲花さん(中1)

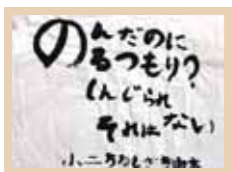


北海道・東北ブロックの受賞者の皆さん

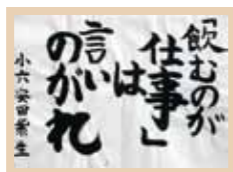
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「お酒自体に罪はない。だけど、お酒を飲んだ後は本人の責任だと思います」

〈優秀作品 4点〉



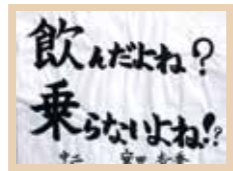
漆崎 由奈さん(小2)



安田 紫生さん(小6)



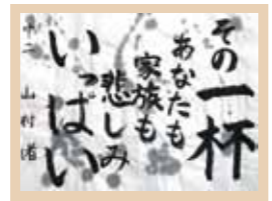
酒井 李果さん(中3)



安田 杏香さん(中2)

関東・中部ブロック

〈最優秀作品 1点〉



山村 渚さん(中2)

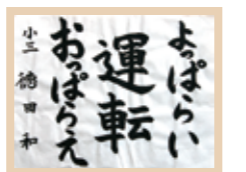


関東・中部ブロックの受賞者の皆さん

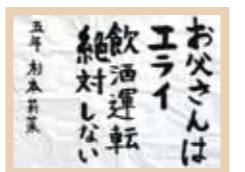
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「学校の近くで飲酒運転の死亡事故がありました。本人だけでなく、家族も悲しむ姿を見ました。背景の薄墨は、「涙」を表しています」

〈優秀作品 4点〉



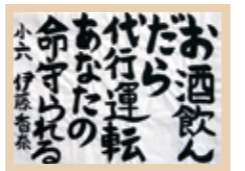
徳田 和さん(小3)



杉本 莉菜さん(小5)



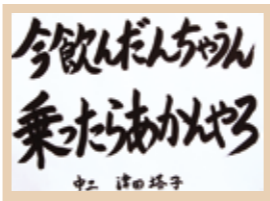
鈴木 陽葉さん(小6)



伊藤 香奈さん(小6)

近畿・中四国ブロック

〈最優秀作品 1点〉



津田 塔子さん(中2)

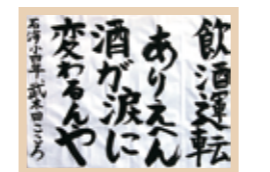


近畿・中四国ブロックの受賞者の皆さん

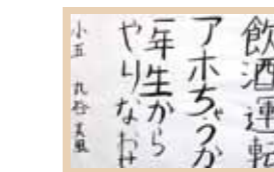
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「シンプルな言葉のほうが伝わりやすいと思いました。飲酒運転は絶対にゼロにしないといけない。そんな社会が当たり前になることを願っています」

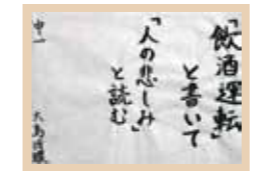
〈優秀作品 4点〉



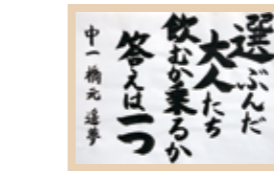
武木田 こころさん(小4)



丸谷 美風さん(小5)



大島 呀環さん(中1)



橋元 遥夢さん(中1)

九州・沖縄ブロック

〈最優秀作品 1点〉



貞國 日花さん(小3)

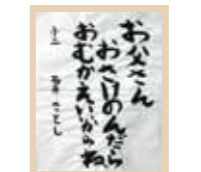


九州・沖縄ブロックの受賞者の皆さん

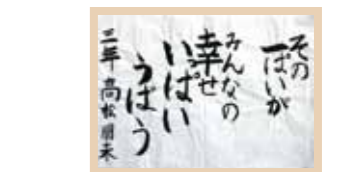
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「お母さんが、福岡県で起きた飲酒運転事故で子供が3人亡くなった事故のことを話してくれました。二度とそんな事故は起こしてほしくない。大切な命なので『命』を大きく書きました」

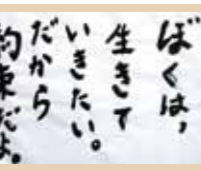
〈優秀作品 4点〉



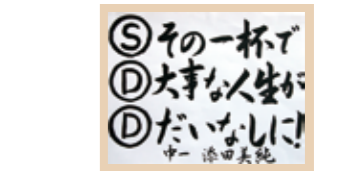
石井 誠士さん(小2)



高松 朋未さん(小3)



柿元 遥輝さん(小4)



添田 美純さん(中1)

JD共済主催「SDD全国子ども書道コンクール」の後援のお礼に伺いました

《全国飲食業生活衛生同業組合連合会(全飲連)》

大変ご多忙中のところ面談していただいたのは、全飲連会長として全国40都道府県の飲食業生活衛生同業組合を束ね、組合員飲食店の発展のために東奔西走し、大変な努力をされている森川進様です。

運転代行業と飲食店は、日頃から特に深いつながりがあることから、全飲連は飲酒運転根絶に対して高い意識を持っておられ、当共済が取り組んでいる「SDD全国子ども書道コンクール」の主旨に大いに賛同されてご後援くださり、全国の10万軒にも及ぶ多くの組合員飲食店が力強く協力してくださいました。今回は、そのお礼とご挨拶をかねての面談でしたが、森川会長はとてどもフランクにご対応くださいました。丹澤理事長から、飲酒運転をなくす受け皿である運転代行業の歴史についてお話した後、現状の課題として、「代行業者の中には、利用者の安全・安心を確保するための強制保険に加入していない者もあり、業界のより一層の健全化に力を入れています」とお伝えしたところ、森川会長は大変驚かれ、「飲食店では、お客様が代行を利用される際はお店側が代行を呼ぶことが多い。お店側は、当然お客様の安全を第一に考えて、信頼できる優良な代行にお願いしたいと考えています」と、現場の要望を訴えられました。そこで、理事長から「全国の組合員の方々のお店に、信頼できる代行の目安となるJD共済加入のステッカーを掲載したポスターなどを掲示してはどうでしょうか」とご提案したところ、森川会長から「それは良いですね。早急に全飲連とJD共済・公益社団法人全国運転代行協会が協定を結んで提携し、飲酒運転根絶に向けた取組みを推進していきましょう」と、快諾してくださいました。そして、理事長が「運転代行業界と飲食店業界が共存共栄さらに発展していくためには、代行業者や飲食店経営者は盤石な組織に加入し、法律を順守し、プロとしてのプライドを持って仕事をしていくことが重要です。また、地方創生に期待し、『お酒を楽しく飲んだ後は、安全・安心な運転代行で帰らしましょう』と広く呼びかけ、飲酒運転のない社会にしていきたい」と応えて、とても意気投合し、予定時間を超える1時間半にわたる非常に意義深い対談となりました。



飲酒運転根絶に強い思いをお持ちの森川進会長(右)
(平成27年2月19日、全国衛生会館 全飲連事務所にて)

お忙しいところ、貴重なお時間をありがとうございました。

後援

- 北海道 北海道教育委員会 北海道警察 札幌市 札幌市教育委員会 青森県 青森県警察 岩手県 岩手県警察 宮城県 宮城県警察本部 気仙沼市 秋田県 山形県 山形県教育委員会 山形県警察 茨城県 埼玉県 千葉県 千葉県警察 東京都 警視庁交通部 神奈川県 神奈川県警察 新潟県 新潟県警察 長野県 長野県警察 静岡県 静岡県警察 三重県 三重県教育委員会 滋賀県 滋賀県警察 野洲市 守山市 守山市教育委員会 守山警察署 京都府 京都府警察 大阪府 大阪府 兵庫県 兵庫県警察 神戸市 奈良県 奈良県教育委員会 奈良県警察 檀原市教育委員会 和歌山県 和歌山県警察 鳥取県警察 島根県 島根県警察本部 岡山県 岡山県警察 広島県 広島県警察 広島市 東広島市 山口県 山口県警察 福岡県 福岡県警察 福岡市 粕屋町 佐賀県 佐賀県警察 熊本県 熊本県警察 熊本市 大分県 大分県警察 宮崎県 宮崎県警察 沖縄県 沖縄県警察 一般財団法人全日本交通安全協会 一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会 一般社団法人日本自動車連盟(JAF) 全国飲食業生活衛生同業組合連合会 公益社団法人全国運転代行協会(順不同)



アワードセレモニー(優秀受賞者の表彰イベント)の各会場では、表彰式だけではなく、参加した受賞者とその親御さんに飲酒運転の恐さをより深く知ってもらうために、「ハネリストトーク」や「酔酩ゴーグルによる飲酒状態の体験」など、さまざまなプログラムが企画されました。(写真左)

また、過去2回の書道作品を飲酒運転根絶の啓発ポスターなどに活用した実例を紹介したパネルを、アワードセレモニーの各会場に展示しました。(写真右)

今回のコンクールにも、全国の小・中学生から数多くのご応募をいただきました。「飲酒運転No!」に対する強い想いが込められているのがよくわかる力作ぞろいです。ここに紹介しきれなかった作品も含めて、子どもたちからの書道作品は、今後も、全国各地の交通安全・飲酒運転根絶イベントなどで、「飲酒運転根絶」と「飲酒運転根絶の受け皿としての運転代行業界の健全化と利用促進」のために、有効に活用させていただきます。

最後になりますが、ご後援、ご協力くださいました後援各位には、大変なご尽力をいただきましたことを、あらためて心より厚く御礼申し上げます。そしてまた、ご応募くださった皆様とご家族および学校関係者・書道教室関係者の方々、ならびに公益社団法人全国運転代行協会と当共済組合員様においては、当共済と「心をひとつ」にして、お取り組みくださいましたことに、深く感謝申し上げます。

LIVE SDD 2015



鈴木雅之



STARDUST REVUE



吉田山田



TRF



吉本新喜劇
(すっちゃん・松浦真也・吉田裕)



矢井田瞳



DEEP



STARDUST REVUE
with 矢井田瞳、吉田山田



AAA



GENERATIONS from EXILE TRIBE
白濱亜嵐・片寄涼太・数原龍友



BENI



morioni



大原櫻子

飲酒運転の撲滅を誓う、10,000人のライブ!!!!



2月22日(日) 大阪城ホールにて開催 (総合司会 小倉智昭)

Official Photo (LIVE SDD 2015)

| | |
|---------------|---|
| 主催 | FM OSAKA |
| 後援 | 内閣府、警察庁、法務省、国土交通省、大阪府、大阪市、堺市、大阪府警察、交通連兇等育成基金、日本自動車連盟、全国運転代行協会、日本自動車会議所、大阪自動車会議所、大阪外食産業協会 |
| コアパートナー | 北海道警察、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道、札幌市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、交野市、大阪狭山市、阪南市、豊能町、能勢町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村 |
| サポートパートナー | 阪急電鉄、阪神電気鉄道 |
| パートナー | 阪急阪神ホールディングス、ジェイ・デイ共済協同組合、ケイ・オブティコム、大阪地区トヨタ販売店、DRIVE & LOVE 赤い風船、akippa、アサヒグループホールディングス、アサヒ ラボ・ガーデン、朝日新聞、尼崎市、ECC、イチネンパーキング、伊藤佑、INSOU 西日本、大阪城ホール、大阪天満宮、大関、音羽、牛乳石鯨共進社、近畿陸運協会、グランマーブル、ぐるなび、グルメ軒屋、月桂冠、交通事故医療情報協会、国際興業大阪、コスモ石油、小西酒造、櫻正宗、サトレストランシステムズ、産経新聞社、ソーマ化粧品、宝酒造、ティンバイティガレージ、東京タワー、TOYO TIRES、中西金属工業、ニュースサービス日経、阪神高速地域交流センター、ベネシード、ベルコ、ベルノリカールジャパン、本州四国連絡高速道路、毎日新聞、丸協運輸、八戸ノ里ドライビングスクール、ヤナセ、ユーボス、読売新聞大阪本社、六甲バター、和歌山マリーナシティ(50音順) |
| 特別協力メディアパートナー | 関西テレビ放送、ジャパンエフエムネットワーク、CAT MUSIC COLLEGE、TOKK、pimory、アメリカ村街頭ビジョンRIBIA、MEME AIR-G、K-mix、FM FUKUOKA |

「SDD」= STOP! DRUNK DRIVING

あなたには何ができますか? 飲酒運転をなくすために。

今年度のSDDプロジェクトの集大成イベント「LIVE SDD 2015」が、2月22日(日)に大阪城ホールで開催されました。このイベントには、1万人の来場者と、SDDプロジェクトに賛同するアーティストが、SDDメッセンジャーとして集結し、『飲酒運転のない未来を創る』ことを誓い合いました。

私たちジェイ・デイ共済は、設立当初より、「運転代行の利用者が増えれば、飲酒運転は間違いなく減っていく。運転代行業は、飲酒運転根絶のためになくてはならない存在。全国の運転代行業者が安心して業務に取り組めるように、補償事業を通じて運転代行業の発展に貢献していこう」との理念のもと、業界団体である公益社団法人全国運転代行協会と連携し、運転代行業の発展を通じて飲酒運転者の減少に寄与してきました。

飲酒運転のない未来を築くために、1万人以上が集うこのイベントで、多くの方々に「飲酒運転根絶の受け皿である運転代行」の存在を知ってもらおうことが、私たちができると考え、業界を代表する思いで6年前からこのプロジェクトに参画し続けています。

そして、今年のイベントでは、運転代行に対する理解を深めてもらい、「飲酒運転根絶の受け皿である運転代行」の利用促進を図るための資料を、飲酒運転根絶の啓発グッズとして来場者に配布しました。

※詳しくは、P.6をご覧ください。



ライブの中で行われたSDD全国子ども書道コンクールのグランドパフォーマンス



約1万人で埋め尽くした会場の中央に設けられたステージ上で、子どもたちが発表



最優秀者4人の子どもたちが、作品に込めた「飲酒運転No!」のメッセージを発表

Official Photo (LIVE SDD 2015)

JD共済 presents SDD 全国子ども書道コンクール

また、このイベントの中では、「SDD全国子ども書道コンクール」のグランドパフォーマンスも行われ、イベント中盤には、各ブロックから最優秀受賞者4人の子どもたちが、ステージから来場者に向けて、このコンクールに応募したきっかけや、作品に込めた想いを発表しました。

そして、フィナーレで、この4人の子どもたちによるパフォーマンスが行われました。子どもたちはそれぞれ、自分の書道メッセージが書かれた4つのピースを持って登場。そのピースをTRFのSAMさんをはじめとするダンサーに渡すと、それぞれのメッセージをイメージしたダンスが披露されました。そして、ダンサーがこのピースを組み合わせて一つの大きなハートを作り、飲酒運転を無くしたいというみんなの祈りが、一つになることを表現しました。

その間、子どもたちはステージに上がり、富山市出身の書家・森大衛氏とともに、飲酒運転の根絶を願う作品を大きな紙に書き上げました。そして、エンディングでは、この作品をステージ中央で掲げ、全アーティストと会場にいる参加者全員が「Heal the World」を合唱しながら、飲酒運転の根絶を祈りました。

Official Photo (LIVE SDD 2015)



<4つの最優秀作品が書かれたピースを組み合わせて、一つの大きなハートを作る演出>



子どもたちが、書家・森大衛氏とともに飲酒運転根絶を願う作品を書き上げました

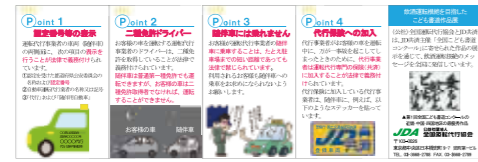


子どもたちと参加アーティスト、そして1万人の来場者がひとつになったエンディング

『運転代行の利用促進』のために、10,000人に啓発グッズを配布!



この名刺サイズに折りたたまれた「じゃばらカード」を開くと、運転代行に関する情報が掲載されています。 ※このカードについては、P.11にも記載しています。



くまモンのクリアファイル



オモテ面

啓発グッズには、こんな願いが込められています

「LIVE SDD 2015」の会場には、年代を問わず「飲酒運転をなくそう!」という一つの思いに賛同した人たちが集まりました。そんな10,000人の来場者に、「へえ〜、運転代行って、こういうサービスなんだ」「なるほど。お酒を飲んだ後に運転代行を利用すれば、飲酒運転はなくなるね」「運転代行を選ぶときはこんな点に留意すればいいんだ」と、『飲酒運転根絶の受け皿である運転代行』のことを身近な交通サービスに感じてもらい、お酒を飲んだら運転代行を利用することが当たり前になるようにと、『啓発グッズ』を配布しました。

今回配布した啓発グッズは、「じゃばらカード」「飲酒運転根絶チラシ」「くまモンのクリアファイル」の3点セットです。この啓発グッズの選定、制作にあたっては、社内で立ち上げたプロジェクトチームを中心に検討を重ねました。「運転代行のことをもっと知ってほしい!」「飲酒運転をなくすために、もっと多くのドライバーに運転代行を利用してもらいたい!」という強い願いを込めて、職員全員で考えたのが、この啓発グッズです。

リニューアルした「飲酒運転根絶チラシ」では、過去の書道コンクールに寄せられた数多くの作品の中から、今回にふさわしいものとして、『代行』と書かれた作品も選んでいます。

子どもたちの書道作品は、今後も有効に活用していきます

今回の「SDD全国子ども書道コンクール」でも、多くの子どもたちから飲酒運転根絶に向けてのメッセージが寄せられ、「LIVE SDD 2015」では、コンクールを締めくくるグランドパフォーマンスも行われました。

しかし、私たちの飲酒運転根絶活動は、まだ通過点に過ぎません。過去3回にわたるコンクールで寄せられた書道作品は全3,596点に上ります。「飲酒運転No!」を訴えたこれらの作品は、これまでに引き続いて飲酒運転根絶のために活用し、『飲酒運転根絶ポスターや小冊子』を製作したり、全国で行われる交通安全・飲酒運転根絶イベントなどにおいて、『飲酒運転根絶メッセージ書道展』を開催していきます。

SDD全国子ども書道コンクール事務局では、飲酒運転根絶活動の一環として、書道作品の無料貸出しを行っています。ご希望の際は、当共済企画管理部(TEL.076-405-6166)までお問い合わせください。



これまでの書道作品を活用した飲酒運転根絶チラシ



運転代行の利用者が増えることを願いながら、全職員で「啓発グッズ」をセッティングしました(写真は損害サービス部の面々)



セッティングした『啓発グッズ』を、「LIVE SDD 2015」の会場である大阪城ホールに向けて発送



大阪城ホールに到着した11,000セットの『啓発グッズ』(段ボール19箱)。JD共済全職員の想いがしっかりと詰まった、代行利用促進につながる啓発グッズです



飲酒事故に奪われた未来

取材・文/柳原三佳(ノンフィクション作家)

加害者が「運転代行」さえ利用していれば……

1月、『SDD全国子ども書道コンクール』関東・中部ブロックのアワードセレモニーで、審査員をつとめさせていただきました。『飲酒運転をなくして!』という子どもたちの純粋な思いは、墨と筆を通して力強いメッセージとなり、この先も多くの大人の心を打つことでしょう。飲酒事故は必ず防ぐことのできる犯罪です。飲酒事故がどれほど大切なものを奪い去るのか……。二組のご遺族に伺いました。

「子どもたちにパパを返して!」

「事故の2時間前、夫は出張先から電話をくれました。普段はすぐに切るのに、その日はなぜか、娘が『パパ、パパ』と甘えたので、30分くらい話したでしょうか。その後は私と他愛のない話をし、『俺も1か月頑張るけん、お前も頑張れよ』と言って電話を切りました。それが、最後の会話になってしまったんです……」

平成25年8月20日、午前0時過ぎ。宇都宮佑季さんの夫・裕さん(27歳)は、長期出張先の千葉県で同僚2人と一緒にコンビニに買い物に行く途中、突然、後ろから走ってきた車にはねられました。一人は重傷、一番後ろを歩いていた裕さんは即死でした。

加害者は夫と2人の子供がいる41歳のタイ人女性。近所の店で酒を飲んでいるとき夫に些細なことで腹を立て、一人でハンドルを握って帰宅する途中でした。車は衝突の衝撃でフロントガラスが割れるほど壊れましたが、被害者らを救護することもせず、そのまま数百メートル先まで車を走らせていたのです。

自動車運転過失致死傷罪で起訴されたこの女性の裁判を、私は毎回傍聴しました。裁判のたびに彼女は法廷の真ん中で土下座をするのですが、いくら頭を床に擦り付けても裕さんの命は戻ってきません。妻の佑季さんは、法廷で声を震わせながらこう訴えました。

「お酒を飲んだのに、なぜ運転代行かタクシーを呼ばなかったのですか?夫が突然いなくなり、私の心は疲れ果てました。でも、どんなに苦しくても子どもがいるので死ぬこともできません。これが生き地獄です」

飲酒事故で一家の大黒柱を失った宇都宮さんの家族を、



▲飲酒ひき逃げ事故で亡くなった夫の裕さんは、5歳、3歳、1歳の、まだ幼い子どもたちの優しいパパでした

事故直後から支え、応援し続けてきた人がいます。福岡市在住の松原道明さん(68歳)。松原さんもまた、一人息子を飲酒事故で失った遺族でした。

事故が起こったのは、平成16年11月2日、午後9時30分頃。見通しの良い幹線道路を直進中だったバイクに、強引に右折した対向車が衝突したのです。

バイクで帰宅中だった会社員の松原和明さん(28歳)は病院に搬送されたときすでに心肺停止。4日後には、婚約者のお宅に挨拶に行く予定だったそうです。

加害者の主婦(45歳)は、その夜、夫と一緒に取引先の社長とお酒を飲み、帰りには社長がお金を出して呼んでくれた運転代行で帰宅しました。ところが、途中で忘れ物に気づきUターンしたのです。

「本来ならそのまま代行運転で帰るべきです。それなのにこの夫婦は、余分にかかる代行代金をもたないと思いき、飲酒の状態にもかかわらず店に停めていた車のハンドルを握って自宅に戻ろうとしたのです」

その途中で、事故は起きました。加害者は救急への通報も行わず、飲酒がばれないよう、現場から離れた場所でハンカチを口に当て立っていたそうです。



▲事故から10年経っても、和明さんの部屋はあの日のままで

「私の息子は、わずか3000円のお金と引き換えに命を奪われ、そして、私達家族や婚約者の人生全てが狂わされたのです。あとき加害者が、運転代行を利用するというあたりまえの選択さえしていれば……」

父親の松原道明さんは、悔しさをにじませます。

*

実は、私自身も運転代行をよく利用する一人です。この身近な交通サービスはどれほど多くの事故を未然に防ぎ、大切な命を守ってきたことでしょう。それは目に見えるものではありませんが、今回の書道コンクールを通して、飲酒運転撲滅活動の他、「随伴車の任意保険加入」や「労災保険加入」等、代行業界全体の健全化も含めて尽力されているJD共済さまのお取組みを知り、私たちが普段、安心して運転代行を利用できる背景に気づくことができました。

運転代行に従事されている皆さまには、大変重要な使命を担っていることを誇りとし、常に「見えないけれど、多くの大切な命と財産を預かっている」という気持ちでお仕事を続けていただきたいと思います。

丹澤理事長が「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン推進委員会」にて基調報告

1月16日、飲酒運転させない社会環境の醸成と飲酒運転根絶気運の定着を図ることを目的に組織された「飲酒運転させない TOKYO キャンペーン推進委員会」が、東京都庁にて開催されました。その中で、東京都庁からの招請を受けた当共済理事長 丹澤が、「ジェイ・デイ共済協同組合の飲酒運転根絶に向けた取組みについて」と題した基調報告を行いました。報告では、6年前からパートナーとなっている「SDD プロジェクト」のことや、3年前から主催している「SDD 全国こども書道コンクール」による飲酒運転根絶活動について説明し、小・中学生が感性豊かに表現した数多くの書道作品が、全国各地で『飲酒運転根絶メッセージ書道展』として展示されたり、『飲酒運転根絶の啓発ポスターや小冊子』として自治体や警察本部で積極的に活用されている事例などを紹介しました。また、公益社団法人全国運転代行協会会長の立場から、昨年末には代行業者数が8,846社、随伴車数が約2万8,000台にまで増えており、運転代行業の社会的使命と役割は極めて重要であると述べたうえで、「飲酒運転根絶の受け皿である運転代行業」に対する理解と利用促進を求めました。

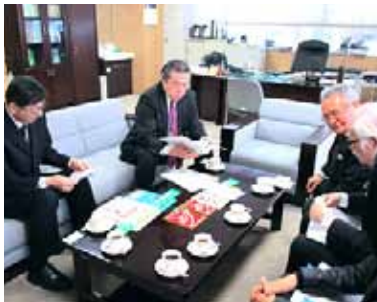
※当共済ホームページの1月16日付け【新着情報】もあわせてご覧ください。



2月23日、丹澤理事長が兵庫県警察本部を訪問

兵庫県警察本部より、一丸交通部長と中村参事官との面談の機会をいただきました。

ジェイ・デイ共済協同組合理事長と公益社団法人全国運転代行協会会長として、それぞれの組織の概要と、運転代行業界の歴史と現状についてお話ししたところ、中村参事官から「昨年も飲酒事故が多発し13人の死亡事故が発生しており、県警と代行業者とが飲酒運転事故抑止活動に協力して取り組んでいます」と、兵庫県内の状況をお聞かせいただきました。お話しを受けて、運転代行事業者が「お客様の大切な命と財産を預かっている」という自覚を持つ重要性をお伝えし、当共済が代行中の事故防止のために製作した



「運転代行業サポートブック」や、事業者が適正営業を行うための指針として協会がまとめた「運転代行のための法令順守マニュアル」等の資料をお見せしたところ、お二方ともとても興味深くご覧になられ、「是非、兵庫県でもこの資料を活用させていただきたい」とのお言葉を頂戴し、ますます「運転代行の必要性」が求められてきていることを強く実感した今回の兵庫県訪問でした。利用者保護を第一に考え、代行業者が法律を守り、事故防止と安全運転に努めて適正営業をしていくよう、当共済も引き続き積極的に、啓発活動を推進していきます。

いろいろ

今回3回目となったSDD全国こども書道コンクール。そして、SDDライブも今年で8回を重ねました。1万人以上が飲酒運転根絶を目指して集うこのライブ。「STOP! DRUNK DRIVING」と発信するメッセージが一段と増え、熱くメッセージを伝えました。JD共済がこのプロジェクトに参画し書道コンクールを主催することと、たくさんの子どもの書道によるメッセージを、様々な団体、媒体を通して発信する取り組みが=代行利用促進であるということ、今一度皆様にお伝えしたいと思います。今回審査員と寄稿をお願いした柳原さんは書道家でもあります。また、偶然地元で組合員事業者をよく利用されており、普段から運転代行に興味を持っておられたそうです。今回のパネリスト参加をきっかけに、「利用者の目線で、今まで以上に運転代行業者をよく見るようになった」とお聞かせいただきました。記事にもあるように、運転代行は飲酒運転根絶のために社会に無くてはならない存在です。人の命と財産を守り、安心・安全を提供することが求められるこの「業」において、**補償切れ、無届、白タク、事故多発**などあってはならないことです。ジャーナリストであり代行利用者でもある柳原さんの信頼を裏切らないよう、適正営業に努めていただきたいと思います。

柳原さんは、ご自身のライフワークとして被害者・弱者に寄り添い、その声を社会に届ける著書を多く出しておられます。組合員事業者の皆様も、交通サービスに携わる一員としてお読みになることをお勧めします。



講談社刊
「柴犬マイちゃんへの手紙」



晶文社
「遺品 あなたを失った代わりに」

契約専用のTEL・FAX

| | | |
|-----|---------------------|------------------------|
| TEL | 0120-21-4455 | 平日(月~金) 10:00~18:00 |
| FAX | 0120-25-9561 | 24時間365日 |

事故専用のTEL・FAX

| | | |
|-----|---------------------|--------------------------|
| TEL | 0120-88-7654 | 夜間・休祝日は 電話オペレーターが承ります |
| FAX | 0120-88-2508 | 24時間365日 |